

〈平和を考えるつどい 2019〉

特別上映つき！
「ゴミ捨て場の子供たち」
(24 分)

映画を作って 伝えたかったこと

しのみや ひろし

講師：四ノ宮 浩さん（映画監督）

「神の子たち」「ゴミ捨て場の子供たち」「わすれない ふくしま」などの作品を通じ、監督はフィリピンの巨大ゴミ捨て場や福島で同じ時を生きる人々の姿を追いつけてきました。監督は現在フィリピンで新しい映画を撮影しながら、現地の人々の暮らしを支える新たなプロジェクト力を注いでいます。命と向き合い、命を燃やす四ノ宮監督からのメッセージを、ぜひ聞いてください。

2019. **7 月 24 日（水）**

午後 **1:30 ～ 3:30**（開場 1:00）

於：**矯風会館 1F ホール**

JR 大久保駅 北口 徒歩 1 分
（裏面に地図）

チケット：

前売り 1,200 円 当日 1,500 円

会員 前売り 1,000 円 当日 1,500 円
（お求め方法は裏面）



撮影：大倉琢夫

主催：公益財団法人日本キリスト教婦人矯風会

講師：四ノ宮 浩さんプロフィール

1995 年、フィリピン・マニラ郊外の巨大なゴミ捨て場“スモーキーマウンテン”に暮らす人々を主人公とした『忘れられた子供たち スカベンジャー』を発表。第 44 回マンハイム国際映画祭ベストドキュメンタリー賞ほか数々受賞し、国内外で高い評価を受ける。第二のスモーキーマウンテンと呼ばれるパヤスゴミ捨て場を舞台とした『神の子たち』（2001 年完成）は、シネマアンビエンテ環境映画祭（イタリア）でコンペティション部門グランプリを受賞し、20 カ国以上で上映された。

2007 年、貧しい環境で生きる子供たちへの直接的支援を目的とした「アジアの貧しい子供たちへのサポートプロジェクト（後に、バスーラの家基金と改名）」を立ち上げ実際に支援活動を行うなど、映画以外の活動も多岐にわたる。『BASURA バスーラ』（2009 年）は、依然として変わらないフィリピンの貧困と、そこで生きる人間たちの“命の輝き”を映し出した。

『わすれない ふくしま』（2013 年）では、3.11 東日本大地震後の福島を舞台とし、避難したある家族と、いまだ警戒区域で 300 頭の牛を飼っている畜産家の日常を追った。原発事故後、牛を殺処分させられた酪農家が自殺した事件、フィリピン人妻を持つ家庭の現実など様々な問題が存在することを描き出し、リアルな福島の姿を映し出した。映画『わすれない ふくしま 改訂版— 2017 年 4 月完成』後に今またフィリピンに向き合い、新作映画を製作中である。

公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会^{きょうふうかい}は…

1886 (明治 19) 年に創立した、日本で一番歴史の長い女性団体です。キリスト教精神に基づいて、女性の視点に立ち、すべての人々の人権と平和が守られるよう、困難な状況にある人々特に女性と子どもへの支援につとめ、社会全般の福祉の増進に寄与することをめざしています。

具体的には、武力によらない平和、脱原発、女性・子どもへの暴力問題、アディクション（依存症）問題などをテーマとした学習会・講演会を多く

開催しています。女性のための施設としてシェルター運営も行っています。



7月24日 講演会 前売りチケットご購入方法

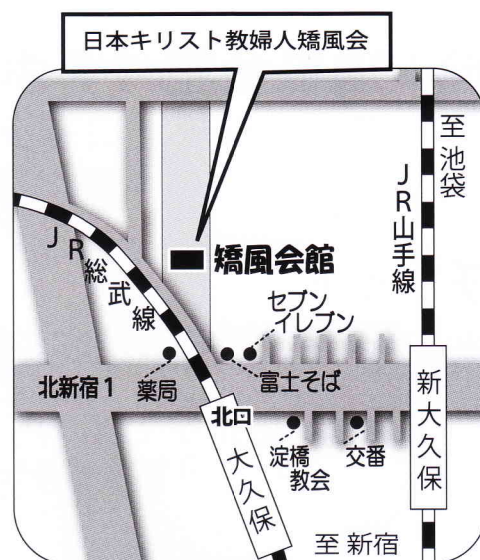
- (1) お近くの方、可能な方は矯風会館（2F 事務局）にご来館の上、代金と引換で直接ご購入いただけます。
- (2) 郵便局にある振替用紙・通信欄に、「7月24日講演会チケット」、またお名前・おところ・連絡先電話番号をご記入の上、1,200 円（会員 1,000 円）× 枚数分を7月17日（水）までにお振り込みください。
振込手数料はお客様のご負担となります。ご了承ください。

○ 郵便振替口座 00140-1-32469

加入者名「日本キリスト教婦人矯風会」

代金のお振り込みを確認後、チケットを郵送いたします。7/24(水)当日、必ずご持参くださいますようお願いいたします。

※ 7月17日以降は、事務局にお問い合わせください。



所在地：東京都新宿区百人町2-23-5

電話：03 (3361) 0934

FAX：03 (3361) 1160

ホームページ：<http://kyofukai.jp/>